- 9 ダニ感染と Guillain-Barré 症候群との関連
 ○野村 恭一・古川 千湖 (埼玉医科大学・神経内科)、
 高岡 正敏 (埼玉県衛生研)、松本 克彦
 The relationship between mite and Guillain-Barré syndrome
 Nomura K., Kokawa C., Takaoka M. and Matsumoto K.

Guillain-Barré 症候群 (GBS) の動物モデルである実験的自己免疫性神経炎 (EAN) は、末梢神経ミエリンの構成蛋白である P2 蛋白 (P2) により惹起される。近年、我々は P2 とニクダニ科の *Blomia tropicalis* から得られた recombinant allergen とに高い相溶性があることを発見した。この相溶性部位は P2 の EAN 抗原性部位を含んでいる。今回我々は、本邦に多く生息する同科の *Glycyphagus domesticus* (Gd) をラットに接種し、EAN 抗原性の有無を神経症候、病理組織、細胞性免疫学的に検討、ダニ感染と GBS との関連について考察した。Gd により EAN の作製に成功。ダニ感作により P2 アミノ酸配列 53-78、60-78 に対する特異感作 T 細胞が出現し、GBS の発症に関連するものと推察した。

- 10 新たなセンチクバエの蛹休眠誘導機構 (2)
 ○森林 敦子 倉橋 弘 安居院 宣昭 (感染研、昆虫)
 New mechanism of pupal diapause induction in the flesh fly,
Boettcherisca peregrina (Robineau-Desvoidy) (2)
 Moribayashi A., Kurahashi H. and Agui N.

親が長日(16L:8D)高温(28℃)下で産仔すると、その幼虫は非休眠蛹となる。終齢幼虫期のセンチクバエを水処理すると蛹への変態は阻止されるが、この水処理期間に短日(11L:13D)、低温(20℃)の条件を与えると、非休眠予定幼虫でも一部は休眠蛹になり、また水処理の日数とともに休眠蛹は多くなる。今回、産仔後から終齢幼虫期までに受ける条件によって休眠率が変化するかを検討した。長日下で産仔された幼虫を終齢幼虫期まで長日または短日で、また高温か低温で生育させた。水処理後蛹の休眠率を求めたが、高温、短日下で生育された幼虫からの蛹の休眠率が一番高い値を示した。これらのことから高温から低温という温度刺激が幼虫への休眠誘導の要因の一つになっていることを確認した。

- 11 ベトナム北部のニクバエ相
 加納 六郎 (科博、動物研究部), Ta Huy Thinh
 (ベトナム生態・資源研、昆虫生態学部),
 ○倉橋 弘 (感染研、昆虫医科学部)
 The flesh flies from the northern part of Vietnam
 (Diptera: Sarcophagidae)
 Kano, R., Thinh, Ta Huy and Kurahashi, H.

ベトナムのニクバエ類については Thinh(1998) 以外にまとまった報告はない。今までにベトナムから記録されたニクバエは 21 種である。今回の文部省海外学術調査はハノイ、ラオカイ、ククホン、ライチャウなどベトナム北部に限られているが 17 属 35 種を記録した。このうち、新記録種が 19 種あり、この中には中国海南島で発見された珍しい種 *Pierretia otiophalla* が含まれている。ヤドリニクバエ亜科に属する *Hoplacephala* 属の 3 種は未記載種の可能性が高く目下検討中である。この学術調査(1995 年 9-10 月, 1997 年 6-7 月)の結果だけではベトナムのニクバエ相の断片をとらえただけにすぎないが、記録された種の多くは東洋区系であり、東南アジア、中国南部との共通種であった。調査地域の海拔は 70-1,950 m であり、大部分の種は低地から山岳地帯にかけて採集されたが *Sarcophaga inextricata* など 6 種は 420 m 以下の低地だけに、*S. antilope* など 3 種は 1,000 m 以上の高地にのみ採集された。

- 12 カムチャッカ半島のイエバエ類 篠永 哲 (東医歯・医動物)、張春田 (東医歯・医動物、国立感染研)
 Muscid flies of Kamchatka peninsula and north Kuril Islands. Satoshi Shinonaga and Chuntian Zhang (Tokyo Med. & Dent. Univ. and National Inst. of Infectious Diseases).

千葉県立博物館によるカムチャッカ半島と北クリル島の調査の際に採集されたイエバエ科ハエ類について報告する。この地域のハエ類については、これまでにあまり研究されていない。1986年に発行された旧北区のカタログでも、カムチャッカは極東地域の一部として扱われ、詳細な分布については不明である。今回の調査で、4 亜科、10 属、24 種のイエバエ科のハエが得られたが、そのほとんどは北旧北区との共通種であり、日本との共通種もわずかながらみられた。ここでは、4 新種を含む 24 種について報告する。